

相変わらず小滝を交えてナメが続く。下れないような所はないが、かといって簡単にスイスイと下れるものでもない。11:05右岸から支沢を合わせた所で休憩。

「この分ならまた懸垂があるかもしれない」と言っていたら、ほどなく10mの滝。勇んで懸垂下降。トップで降りた私が、「この滝なら登れそうだなあ。」と思いながら、ちょっと先を偵察してみると、15m 2段の滝が続いている。ザイルをしまし間もなく、続いて懸垂下降である。特に上段部分はシャワーを浴びながらの下降となる。

このあたりまでくると、滝を懸垂で下る醍醐味とコツが内海君にもわかってきたようだ。「また懸垂だ。」と言うたびに嬉しそうな顔をしながらちゅうちゅう下ってくる。

8m、10mと更に2回懸垂下降を行ない、10m 2段滝をクライミングダウンすると、ほどなく二俣となり、あとは平凡な河原歩きとなった。只見川到着11:55。

(記・

[タイム] 尾根・下降開始(9:50)→下降終了(11:55)

丸山岳・大幽西ノ沢遡行、東ノ沢下降

1983年8月13~15日

L

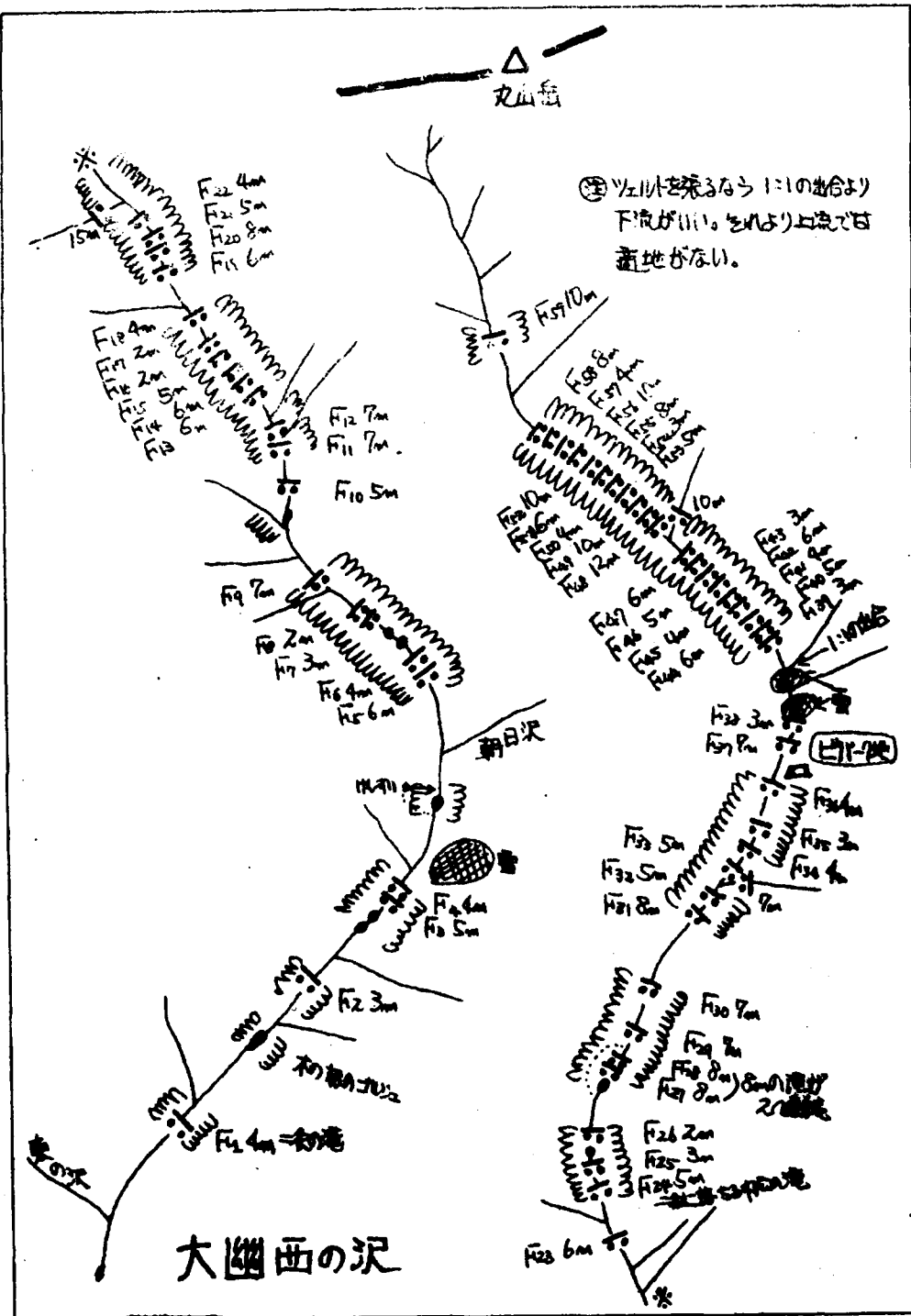
8月13日 晴。 福島→車テポ地

土湯峠を越え、国道49号から252、そして282号を走り抜けて只見へ。ここまではよかったのだが、白沢部落へ入る道がわからなくて、迷ってしまった(白沢部落へは只見町中心地より8km程進んだ所のY字路を右に進めば一本道である)。ガソリンスタンドで道を聞き、ゲートに着いたのは20時を過ぎていたと思う。

ゲートの所には車を置けないので、400m程戻った所の広いあき地に車を止め、テントを張った。星がとてもきれいだ。

8月14日 快晴。 車テポ地(6:10)→大幽沢出合(7:00)→東ノ沢分岐(8:00, 8:30)→黒河原沢出合(10:10)→朝日沢出合(11:00)→8m 2段の滝(13:50)→1対1の出合(14:40)→ピパーク地(14:50)

4時30分起床。昨日買っておいた弁当を食べて出発する。ゲートを越して、林道を
 歩、が、どこが大層深いところか分からず、結局橋が壊れてから所まで歩いてし



まった。

林道がカーブした地点で川に降り、黒谷川の渡渉となるが、最初から履までであり、流れも強く、緊張する。大幽沢出合にはわずかに吊橋跡があり、左岸に登山道のようなものがある。我々は道を使わず、初めから大幽沢を遡行する。

1時間で西ノ沢と東ノ沢の出合に着く。ここでワラジをつけ、いよいよ西ノ沢の遡行である。

40分程歩いて最初の滝らしい滝にぶつかった。右側を直登する。間もなく右に直角に折れるゴルジュが現われる。運よく太い大きな流木があったため、その上を歩き、容易に通過する。次に3mの釜をもった滝が現われ、私は右側をへつろうとしたが、見事落ちてしまった。左側の方が楽のようだ。

黒河原沢出合で山形大学の3人パーティに会う。話をすると、我々と全く同じ計画である。以後、抜いたり抜かれたりしながら進むことになる。少し歩くと、6人程の釣りのパーティに追いついた。追いこすのは悪いと思うが、台風が来ているので、先を急ぐことにする。

10時30分、手強いゴルジュが現われる。泳いで通過しようとしたが、流れが強く、押しもどされる。仕方なく、右岸を捲き、懸垂下降する。このあと10m以下の滝が次々と出てくる。一見きびしそうに見えても、小さいがホールド、スタンスがしっかりしていて、問題なく通過する。

13時50分、8mの滝が2つ続く所に出る。2つとも釜をもっており、西ノ沢で一番迫力を感じた。山形大パーティが直登を試みる。1つめは登れるが、2つめはまったく刃がたたず、滝の上からバツのサインを送ってきた。我々は左岸を捲くことにする。ここの捲きは、あまり高く捲かず、早目にトラバースした方がよいと思う。

1対1の出合まで快適に直登できる滝が続き、問題なく通過する。2人で「もうすぐ3時だし、そろそろ今日はこの辺りで終わろうか」と相談していたところ、山形大パーティの1人がきて、「一緒にどうですか」ということで、10分程戻った所のやや広くなった所にツェルトを張る。焚火で服をかわかし、8時頃シュラフに入る。

8月15日 曇り時々雨。 ビパーク地(6:00)→稜線(7:40)→丸山岳頂上(7:45, 8:15)→東ノ沢源頭(8:30)→窪の沢出合(11:30)→西ノ沢出合(14:00)→黒谷川出合(14:40)→車デボ地(14:55)→福島

4時半起床。あいにくガスがかかっている。

1対1の出合から先も滝が連続して出てくる。高さが10m以下で水量も少なく、小規模な滝ばかりであるが、意外とおもしろくて、泳ぎあり、シャワークライミングありで、すべての滝が直登でき捲く必要がないため、楽しく進行できる。

7時40分、稜線に出る。ガスがかかっており風も強く、早く沢に降りたい気持である。頂上に一旦行き、踏跡をたどる。踏跡が消えた所がちょうど予定の下降点であった。

8時30分、下降開始。滝らしい滝もなく、階段状やナメ状の滝なので、問題なく通過する。途中、F4を少し過ぎた所で、予定よりだいぶ早いので、1時間程休んでラーメンを食べる。

平凡な河原歩きにあきた頃、窪の沢合流点に出る。すぐにゴルジュが現われ、5mの滝、2mの滝とも、右岸をへつって通過する。記録を読むと、捲いているが、その必要はないと思う。

また平凡な河原歩きが続き、14時、西ノ沢出合に着く。黒谷川まではもうすぐなため、休まず歩くことにする。

今回は自分が期待していたほどの沢ではなかったが、楽しく進行できた。丸山岳の頂上のように女性的な沢だと思う。

(記)

西ノ沢進行のポイント

黒谷川～東・西ノ沢出合：遮断機より500m程

進むと対岸の大幽沢の谷が見えるよ

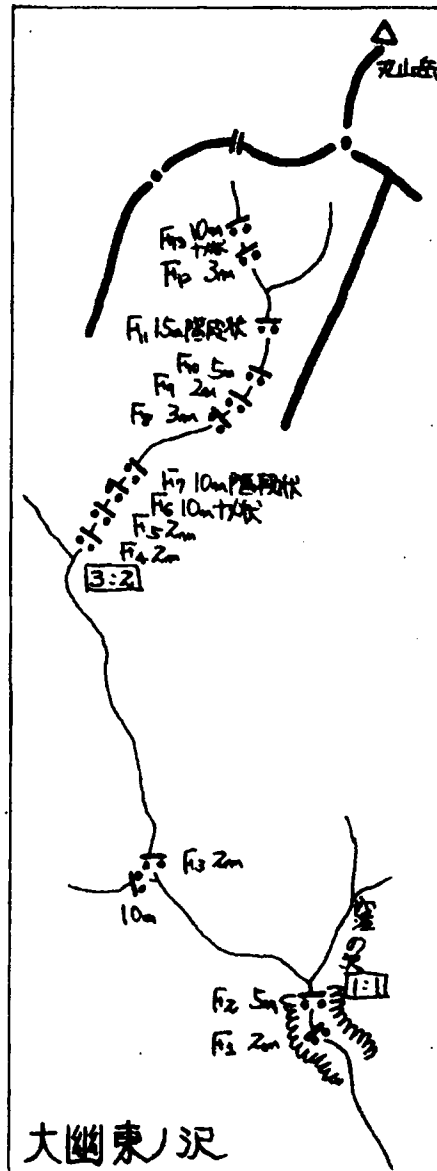
うになり、道の脇にも広がった所が出てくる。黒谷川への下降はそこから

明瞭な道を下る。黒谷川は水量も多く、履まで水につかりながらの渡渉である。

後は広い河原歩きで、2、3ヶ所ゴルジュもどきの所もあるが、何とい

うこともなく、通過できる。

出合～黒河原沢：突然小さなゴルジュがあつたりするが、捲いたりせず、努めて泳



いで通過すべきである。その方が安全だし、時間もかからない。それに楽しい。

～朝日沢：朝日沢手前のゴルジュ内の淵は、泳ごうとしても流れが強く、押し返されてしまう。ここは左岸から捲いて懸垂下降する。右から行っても良いが、急な草付のトラバースが続くので危険だ。他は何なく行ける。

～奥の二俣：流れが急に細くなり、河幅もせばまって3～6mの幅となる。滝も連続するようになるが、ほとんど直登できる。釜を泳いで取り付く場合もあるが、流れが強くないので楽である。ただ8mの滝が2つ連続する所は、1つ目は登れても、2つ目が水流が強くて登れない。左から捲いてできるだけ早くトラバースに入る。テント場は流れのすぐ脇になるので、雨が降ったりしたら尾根上まで逃げなくては行けない。

～稜線：滝が連続するが、努めて直登すべきである。難しそうでも実際にはそれほどではなく、晴れていると快適なシャワークライムとなる。シビアな登攀もあるが、ザイルを出すまでの必要はない。源流では沢が分かれるようになるが、主流はわかりやすいので間違えることはないと思う。次第に草原の谷の中を登るようになり、最後は急な湿原を登りきってやぶこぎ3mで稜線の登山道に飛び出す。そこから頂上までは右に5～10分である。頂上は湿原の中に池塘と三角点がある。

この沢は思い切り泳いだり直登しなければ価値を見出すことができない。なお、東ノ沢はどうということもなく下れ、ザイルなど全く必要ない。ただアブの多さははんばではなかった。気が狂うほど多かった。 (記・

平ヶ岳・恋ノ岐川

1983年8月12～14日

L

8月12日 晴。 福島(17:40)→恋ノ岐川出合(23:00)

西さんの車で出発。御池を越えて、恋ノ岐川の橋の所でピバーク。釣り人のテントが数張り。

8月13日 晴。 出合(5:05)→清水沢出合(7:00)→オホコ沢出合(11:40)→沢終了(16:30)→登山道(17:00)→幕営地(17:35)

うす暗いうちに朝食。5:05 出発。釣り人に気を使って、5分程左岸の踏跡を歩